

# 教 師 ノ ー ト

日付	2015年 1月11日
単元	士師記・ルツ記
テーマ	神の戦い
タイトル	ギデオンと300人
テキスト	士師記7:1-23
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) イザヤ41:10 or 申命記28:2
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます)	<a href="#">小学下級3巻-主題3-課7</a> <a href="#">小学上級1巻-主題2-課9</a>
<b>□導入</b>	今日のお話はギデオンがミデアン人と戦うお話です。そしてこの戦いでは武器を使いません。武器を使わず戦うってどんなことでしょうか？
<b>□ポイント1 ギデオンはミデアン人との戦いのために兵隊を集めました</b>	ミデアン人と戦うために、ギデオンは角笛を吹いて兵隊を集めました。ギデオンの角笛を聞いていろいろな所から、大勢のイスラエルの兵士がやってきました。ギデオンは集まった大勢の兵士たちと戦いに出かけました。対するミデアン軍も備えをしていました。この時イスラエル軍は三万二千人。ミデアン軍はそれをはるかに上回る十三万五千人でした。  その時、神様はギデオンにこうおっしゃいました。「兵隊の数が多すぎます。ミデアンとの戦いに勝利した時、自分たちの力で勝ったつもりになって自慢をするといけません。ですから人数を減らしなさい。戦うのが怖いと思っている者たちを、さっさと家に帰してしまいなさい。」ギデオンは神様に言われたとおりに、戦うのが怖いと思っている者たちを家に帰しました。すると二万二千人もの人たちが帰って行きました。残った人は一万人です。  ところが神様は、「まだ多すぎる。全員を川に連れて下りなさい。だれがあなたと共に行くべきか、はっきり示してあげよう」と言われたのです。ギデオンは、みんなを川に連れて行き水を飲ませました。多くの人は地面に手をついて、かがみこんで口を水につけて飲みました。またある人たちはしゃがんで、手で水をすくって飲みました。すると神様の声がして兵隊の選び方を教えて下さいました。「一つは、手で水をすくって飲んだ人たちを集めなさい。もう一組には、かがみ込んで、口を水につけて飲んだ人たちを集めなさい。」手で水をすくって飲んだのは、三百人だけでした。ほかの人はみんな、口を水につけて飲んだのです。 神様ははっきり言われました。「私は、この三百人でミデアン人を征服する。残りはみんな家へ帰らせるがよい。」そこでギデオンは、兵隊の持っている角笛と壺を置かせてから、三百人だけを残し、あとは全員帰らせました。 この三百人で十三万五千人のミデアン人と戦うのです。本当に大丈夫なのでしょう。ギデオンは、神様がおっしゃるとおりにしました。
<b>□ポイント2 ギデオンはミデアン人の陣地に偵察に行きました</b>	さてその夜のことで。神様はギデオンに命じられました。「起きなさい。全軍を率いてミデアンの陣地に攻撃しなさい。必ず勝利します。それでも恐れがあって心配なら、配下のプラを連れて敵の陣地へ入って行って、いったい敵陣ではどんな話がされているか、自分の耳で確かめてみなさい。きっと勇気が湧いてきて攻撃できるはずですよ。」

ギデオンはそっと敵の陣地へ入って行きました。音をたてずに、人もらくだも起こさないように注意をして行きました。そこにはミデアンの兵士たちが数え切れないほどたくさんいました。

ギデオンは近くのテントで敵が仲間と話をしているのを聞きました。「今、いやな夢を見たよ。大きな大麦のパンのかたまりが、この我々の陣地めがけて転がり落ちて来るんだ。それでな、俺たちのテントをペシャンコにしちまうんだ。」もう一人の兵隊が答えました。「その大きなパンのかたまりはイスラエル軍のことだ。つまり神様が、俺たちをギデオンやイスラエル人に負けさせてしまう。この戦いは神様によってギデオンが勝つように決められているんだ。」

この話を聞いたギデオンは、本当に神様がこの戦いに、勝利をもたらして下さることを確信し、神様に感謝の礼拝をささげました。

### □ポイント3 ギデオンは神様に言われたとおりにミデアン人と戦いました

ギデオンは、すぐに自分の陣営に帰って来ました。そして兵士たちに言いました。「集まれ！神様は我々の手にミデアンの大軍を渡して下さるぞ。神様が我々に勝利を下さる。」

ギデオンは三百人を百人ずつ三つの部隊に分けました。そして全員に角笛と壺を持たせました。壺には、たいまつが隠してありました。そして作戦の説明をしました。「私たちは三つの部隊で進みます。敵の最前線に着いたら、私がするとおりにしなさい。私が角笛を吹くまでは、静かにしていなさい。私と私の部隊の者が角笛を吹いたら、みんなもいっせいに角笛を吹き鳴らしなさい。そして、『神様のため、ギデオンのために戦うぞ』と叫ぶのです。」

ギデオンの率いる百人が、ミデアン軍の前線に忍び込んだ時は真夜中でした。ミデアン人たちは何も知らずにぐっすり眠っています。他の部隊の二百人の兵隊たちも片手に角笛を持って、もう一つの手にはたいまつを入れた壺を持って近づいて行きました。

ギデオンが合図の角笛を大きく吹き鳴らしました。彼らはいっせいに角笛を吹き鳴らし、壺を打ち砕きました。暗やみの中で、たいまつがぱっと燃え上がります。みんながいっせいに大声で叫んだのです。「神様のため、ギデオンのために戦うぞ。」何とすごい音だったでしょう。その様子はまるで大勢の兵隊たちがやって来たような音でした。

ミデアン人たちは皆、ビックリして飛び起きました。そして外を見てみると、陣地のまわりにはたくさんのあかりが見えました。実際は三百人なのに、そんなことを知らないミデアン人には、自分たちよりずっと大勢に見えました。彼らは悲鳴をあげて逃げ出しました。また、あるミデアン人たちは敵と味方の区別がつかないで味方同士で戦っていました。

神様が教えて下さった方法で、イスラエル人たちは敵を追い払うことが出来ました。戦争が終わった時、ギデオンの兵隊は一人もけがをしていませんでした。たった三百人で十三万五千人のミデアン人に勝利することが出来たのは、神様が一緒にいて下さったからです。

### □結論 ギデオンは300人の兵士でミデアン人に勝利しました

#### □適用（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

1. ギデオンたちは、少ない人数で敵に勝利しました。私たちクリスチャンも、学校などでは少数です。でも人数が少なくても、神様が共にいて下さるならば、勝利者となれます。勝利者となれるようにお祈りしましょう。
2. 戦いに勝ったのは、ギデオンやイスラエル人が強かったからではなく、神様が命じられたことに従ったからでした。神様に従うことが出来るようにお祈りをしましょう。